

**製品名:** HCF1 ウサギポリクローナル抗体

**カタログ番号:** APRab11926

研究使用のみ

## 概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

## 応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:10000-1:20000
分子量	208kDa

## 抗原情報

遺伝子名	HCFC1
別名	HCFC1; HCF1; HFC1; Host cell factor 1; HCF; HCF-1; C1 factor; CFF; VCAF; VP16 accessory protein
遺伝子 ID	3054.0
SwissProt ID	P51610
免疫原	抗血清はヒト HCFC1 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 131-180

## 背景

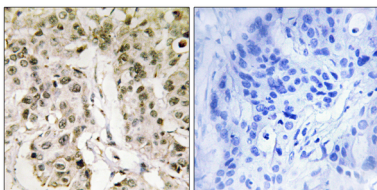
この遺伝子は宿主細胞因子ファミリーのメンバーであり、5つのケルチリピート、フィブロネクチン様モチーフ、および6つの HCF

リピートからなるタンパク質をコードしています。各リピートには、非常に特異的な切断シグナルが含まれています。この核内コアクチベーターは、6つの可能な部位のいずれかでタンパク質分解的に切断され、N末端鎖と対応するC末端鎖が生成されます。このタンパク質の最終形態は、非共有結合したN末端鎖とC末端鎖で構成されます。このタンパク質は、単純ヘルペスウイルス感染時の細胞周期制御と転写調節に関与しています。異なるタンパク質アイソフォームをコードする選択的スプライシングバリエーションが報告されていますが、すべてのバリエーションが完全に特徴付けられているわけではありません。 [RefSeq 提供、2008年7月],ドメイン:HCFリピートは、非常に特異的なタンパク質分解切断シグナルです。、ドメイン:ケルチリピートは、HCFC1R1との相互作用を媒介するベータプロペラドメインと呼ばれる6枚羽根のケルチベータプロペラに折り畳まれます。、機能:細胞周期の制御に関与します。許容細胞への溶解感染により、HSVトランス活性化タンパク質VP16はHCFC1と会合します。HCFC1への結合によりVP16が活性化され、オクタマーモチーフ結合タンパク質POU2F1と会合して、HSV最初期遺伝子の転写を活性化する多タンパク質-DNA複合体を形成します。また、ZBTB17およびGABP2によるトランス活性化に拮抗し、ZBTB17によるp15(INK4b)プロモーターの活性化を抑制し、p300をリクルートする能力を阻害します。EGR2およびGABP2の共活性化因子。クロマチン修飾Set1/Ash2ヒストンH3-K4メチルトランスフェラーゼ(HMT)複合体とSin3ヒストン脱アセチル化酵素(HDAC)複合体(それぞれ転写の活性化と抑制に関与)を結合させる。、PTM: O-グリコシル化。、PTM: HCFリピート内の1つまたは複数のPPCE--THET部位でタンパク質分解的に切断される。主要なN末端鎖およびC末端鎖のさらなる切断により、より小さな鎖が「トリミング」され、蓄積される。、類似性: 5つのケルチリピートを含む。、細胞内局在: HCFC1R1は細胞内局在を調節し、HCFC1R1の過剰発現は細胞質へのHCFC1の蓄積につながる。、サブユニット: 主に110~150 kDaの6つのポリペプチドと、少量の300 kDaのポリペプチドから構成される。N末端およびC末端切断産物の大部分は、非共有結合的ではあるが、強固に会合したままである。POU2F1、VP16、CREB3、ZBTB17、EGR2、E2F4、CREBZF、SP1、GABP2、Sin3 HDAC複合体(SIN3A、HDAC1、HDAC2、SDS3)、Set1/Ash2 HMT複合体(SET1、ASH2、WDR5)、SAP30、SIN3B、OGT1、FHL2と相互作用する。MLL複合体の構成要素であり、少なくともMLL、ASH2L、RBBP5、DPY30、WDR5、MEN1、HCFC1、HCFC2から構成される。HCFC1R1およびTHAP11と相互作用する。、組織特異性: 胎児組織および成人の腎臓で高発現。試験したすべての組織に存在する。、

## 研究分野

-

## 画像データ



HCFC1抗体を用いたパラフィン包埋ヒト乳癌組織の免疫組織化学染色。右の写真は合成ペプチドでブロッキングした状態。